



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **36**
2020.10.30

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：エコパークシンポ／中野西高／ユ協青年部／ユース会議／附属松本中学／ESD 講義／通常総会

11月15日 ユネスコエコパークを活かしたESD/SDGsの実践を考えるシンポジウムが開催されます。ぜひご参加ください

中部地方 ESD 活動支援センター主催、当コンソーシアム共催で、「ユネスコエコパークを活かしたESD/SDGsの実践」をテーマとしたESDダイアログが開催されます。3回目となる今年は、白山ユネスコエコパークにフォーカスしますが、オンラインでの開催となります。各学校の事例報告では、白山ユネスコエコパークの高山市立荘川中学校のほか、山ノ内町立南小学校(志賀高原ユネスコエコパーク)、飯田市立上村小学校(南アルプスユネスコエコパーク)の先生にも発表いただきます。オンラインですので、遠路出向くことなく気軽に参加できます。ぜひご参加ください。



9月3日 中野西高でユネスコエコパークについての出前講座をおこないました

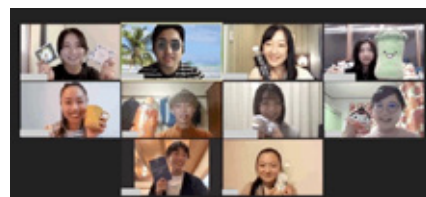


中野西高等学校で、1、2年生100名を対象に、「志賀高原ユネスコエコパーク 人と自然の調和を目指して」をテーマに出前講座をおこないました。中野西高は、長野県内の高等学校で最初にユネスコスクールに加盟した学校で、地元中野市の行政や青年会議所との協働、国際交流のほか、ABMORIなど志賀高原ユネスコエコパークでの活動にも以前から取り組んでいます。今年は総合的な探究

の時間で「環境・自然」のグループを選択した生徒の皆さんに、ユネスコエコパークとは何か?というところから、現在ユネスコエコパークが抱える課題について、「生物多様性の4つの危機」をベースにお話させていただきました。今後、これらの課題に生徒の皆さんがどのような解決策を考えるのか、楽しみにしています。(水谷瑞希)

9月26日 長野ユネスコ協会青年部主催「りもっぷる」でユネスコスクールの卒業生を招いた学習会が開催されました

長野ユネスコ協会青年部つながるは、隔週土曜日にミーティングアプリZoomを利用して学習会「りもっぷる」を開催しています。これまでに「ユネスコ憲章を読んでみよう」、「社会教育とCLC」、「世界遺産について学ぼう」等、ユネスコに関わる様々なテーマで行われてきました。そして、9月26日には、「ユネスコスクールってどんなところ?」と題して、長野西高校、中野西高校、文化学園高校出身の4人の大学生をゲストとして招き、県内のユネスコスクール卒業生のこれまでとこれからについて学びました。ゲストの4人からは、ユネスコスクールでの思い出と、それが現在の活動にどのように繋がっているのかが語られました。長野ユネスコ協会青年部からは、「ユネスコスクールで様々な経験をした若者たちの卒業後の受け皿となれるような活動をしていかなければならないことを痛感した」との意見も出され、長野県でESDを推進する青年同士の充実した学び合いの時間となりました。(安達仁美)



10月3日～4日 第9回国際ユース環境会議が開催されました

長野の中高大学生を主体としたミーティングも今年はオンラインを活用することで環境活動をしている全国のユースにも呼びかけることで視野が大きく広がった。3日は市内の会場と他県からのユースとzoomを使って今年のテーマである「ゴミって何?」を事前作成の資料を各自英語で発表した。古着をダサくなくリサイクルするなどユースらしい発表があった。「ポイ捨てを減らすには」をグループ毎に討論し、発表の後、フィリピンのゴミ山で暮らす子ども達の写真紹介があり、ゴミは見方によって有用にもなることがわかった。4日は小田切の錬成センターに集まり、端材を活



用した竹細工など昔の遊びを体験したり、海外コースとゴミについて話したりして学習した。最後に1年後に送られる世界と自分宛への「未来への手紙」を書いてまとめをおこなった。コース参加者は14名(県外4名)でした。(渡辺隆一)

志賀高原で信州大学附属松本中学校の高原学習がおこなわれました

10月12日に信州大学附属松本中学校の志賀高原体験学習が、信州大学志賀自然教育園などを会場に開催されました。毎年、恒例となっている附属松本中学校の志賀高原での高原学習ですが、今年はコロナ禍の影響で夏の宿泊を伴う実施が中止に。日程を日帰りに変更し、さらに「密」を避けるために全体を2グループに分けて実施するなどの工夫をして、秋の再チャレンジとなりました。この実施にあたって当コンソーシアムでも、志賀高原観光協会・ガイド組合の環境学習プログラム作成のほか、オンラインでの事前打ち合わせの設定などの協力をおこなっています。当日は晴天に恵まれ、生徒の皆さんは紅葉真っ盛りの秋の志賀高原を満喫しながら、自然と人間との共生について考えることができました。(水谷瑞希)



10月20日 長野県生涯学習推進センターの講座でESD講義と事例発表がおこなわれました



10月20日に長野県生涯学習推進センター講堂で開催された、地域と学校の連携推進研修「持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方」において、「ESD/SDGsが育むつながりと持続可能な社会」と題した講義を行いました。また、地域と連携したESD実践の事例発表として高山村立高山小学校と塩尻市宗賀公民館が実践報告をしました。生涯学習推進センターでのESDをテーマとした講座は、今年で3回目となりましたが、毎年参加者が増え今年はコロナ禍にありながらも97名の参加者が集まりました。講座の中では、Mentimeterというプレゼンテーションアプリを使用して、SDGsとESDの認知度と「持続可能な社会づくりに必要なもの」について受講者の意見を収集しました。ESDよりもSDGsの方が認知度が高いことが分かり、また、持続可能な社会づくりに必要なものとして「人とのつながり」を挙げる人が多くいることがわかりました。信州ESDコンソーシアムも今年で5年目をむかえ、つながりの輪が広がっていることを実感しています。つながりを大切にしながら豊かな実践を育んでいきたいと改めて感じました。(安達仁美)

10月24日 信州ESDコンソーシアム通常総会が開催されました

今年の総会はコロナのため、オンラインで開催されました。開催の1時までには18団体が画面上にそろい、宮崎会長の「コンソの活動は年々広がり、ポストコロナへの夢としてSDGs2030年を目指して世界との交流も期待される」との挨拶で開会しました。議長として西教授が選任され、役員選出以下が協議され承認された。19年度事業報告は事前に配布された「成果報告書2019」にもとづいて紹介され、特に19年度の推進事業であるエコパークについてはESDやSDGsとの関連をパワーポイントで解説した。20年度の事業計画については、ユネスコスクール支援をはじめ、志賀高原エコパークでのESD実践をモデル校として全国のESD組織との交流をおこなっていることが報告された。その後、各団体の活動報告が行われた。まず支援組織のユネスコ協会・ユネスコアジア文化センター・EPO中部からは今年のユネスコスクールの地方大会や全国大会がオンラインで開催される、SDGsチェックリストが公開されているなど、地域団体の長野ユネスコ協会青年部では隔週に高校大学生とのリモート会議を開催している、長野県NPOセンターではコースリーチで高校生の自主活動を促進しているなどが、各ユネスコスクールからは独自の環境活動や国際交流など多彩な活動が紹介された。プラスチック削減ではエコバッグよりもより進んだ対策として新聞紙によるバッグ作成と提供が考案され実行されていることは新しい活動として注目される。最後に、11月15日の「白山からエコパークを活かしたESD/SDGs」のシンポジウムと2月6日の「成果発表&交流会」がいずれもオンラインで開催されるのでぜひご参加をと紹介され、宮島副会長の閉会挨拶で終了した。初めてのオンライン開催であったが皆様の協力で無事に終わることができました。(渡辺隆一)



お知らせ

第12回ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会が令和2年12月6日(日)に開催されます。今大会では、「ESDを取り巻く国内外の最新の知見」「SDGsとESDの関連」「ユネスコスクールにおけるESD活動の諸課題の解決」「未来を担う人材づくりのための学校教育の在り方」などを展望します。YouTube Liveでの配信予定です。希望者はHPを確認ください。

信州
ESD

信州ESD通信

No.36 2020.10.30

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・高橋 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp